



左：文化祭の様子 右：そば打ち体験講座

11月1日(土) 2日(日)に文化祭を開催しました。今年は作品展示だけでなく初日にペーパーアートボックスを制作しました。子どもから大人まで楽しめるクラフト体験。色とりどりの紙を使って、オリジナルの作品作り、それを作品として展示しました。

2日目はそば打ち体験講座を実施。波田から講師を招きそば打ち体験は3年ぶりの開催です。未経験者がほとんどでしたが、悪戦苦闘しながらなんとか完成。時間がかかり試食会は中止となりました。

例年のそば食べ放題を止め動員が減ったことは、次年度への課題でしたが、工夫しながら皆で楽しめる町会行事としていきます。

(水波 W)

わが町会の文化祭

10月から11月にかけて、本郷地区各地で文化祭が開かれました。町会それぞれで趣向を凝らした催しが盛大に行われました。その様子を紹介します。



令和8年1月1日現在

人口	14,312人
男性	6,957人
女性	7,355人
世帯数	7,050戸

横田公民館

第49回文化祭の裏方

11月2日(日)に文化祭を横田公民館で開催。役員は開催前の平日夜間に2回の実施内容の話し合いをし、それぞれの作業を分担した。

展示品の募集の呼びかけ、抽選賞品を検討購入、昼食の



講演 一日の三食サンプル例を見ながら栄養バランスを学んだ

カレー計画、限られた予算での安い材料店探し、講演・公演の出演を依頼、使用用具準備などを事前に行った。

前日は公民館前にテントを組み立て、その下に机・椅子を並べた。館内では出品者からの展示品を受付、展示品を講堂に飾り、昼食の食材・器具調理準備、および講演・公演の機材準備をした。

当日は来館者の受付、屋外会場の来客対応・イベントの司会を行い、限られた時間内でカレーを調理した。最後は抽選会で各町会長が抽選券を引き、当選者に賞品を渡して盛り上がった。終了後は、役員全員で後片付けをした。

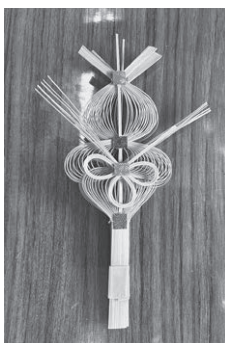
(横田5 M)

お神酒の口作り見学会

徳利に挿して飾る縁起物「お神酒の口」。その制作方法や歴史を学ぶ見学会を12月9日(火)に本郷公民館で開催しました。講師には、唯一の伝承者である千野恵利子さん(原出身)をお招きし、匠の技をご披露いただきました。

参加者からは感嘆の声が上がるともに、「自分でもやってみたい」という感想も聞かれました。

(本郷公民館)



御神酒の口

冬を越す野鳥たち

木の実をくわえるヤマガラ

撮影地：浅間温泉御殿山



木々の葉が落ちて山林の見通しが良い冬はバードウォッチングに適した季節です。カメラと双眼鏡を持ち、白銀の北アルプスを眺めながら、浅間温泉の御殿山や大音寺山の遊歩道を巡ってみました。

御殿山では林間を飛び交うシジュウカラやヤマガラの群れに遭遇。いずれもスズメほどの大きさの小鳥です。腹部が薄茶色のヤマガラが枝に止まると、くちばしに木の実をくわえました。食べ物の乏しい冬には貴重な食料です。

一方、大音寺山では上空を飛ぶオオタカを目撃しました。小鳥の天敵です。生態系の上位に立つオオタカもまた、鋭い目で獲物を狙っているのです。

(浅間4 T)

石井柏亭と浅間

昨年は戦後80年という節目の年であった。松本市美術館では「戦後80年石井柏亭えがくよるこび」展が催された。柏亭一家が東京大空襲で焼け出され、疎開したのが昭和20年3月、東筑摩郡本郷村の浅間温泉だった。当初は東山温泉（野球場東側の小高い所にあった旅館で、現在は取り壊されている）に居たが、その後元疋の湯の一角に移り住んだ。現在の浅間温泉第二町会

の第三常会である。この建物は現存し、当時の当主の孫である滝沢一以さんに引き継がれている。かつての柏亭の居室は、現在手仕事扱い抛・ギャラリ「ゆこもり」の常設展示室として工芸・クラフト等が展示されている。

滝沢さんによると当時すでに中央画壇で中心的な存在であったが、決して偉ぶらず、気さくで情に厚く世話好き、義理堅い人だったという。画家のみならず大勢の方が柏亭を慕い集ったそう。分け隔

てなく接する人柄は、地元の人たちに対しても同じだったろう。

私の記憶だが、昭和20年代の中頃以降だったか、本郷村民大運動会は一大イベントだった。地区ごとに幟や旗を先頭に入場行進、地区対抗の仮装行列、競技大会で白熱した覚えがある。当時の浅間は、浅間第一部落・第二部落……という名称の地区割で、柏亭の住まいは第四部落であった。この運動会のために柏亭は幟の制作を引き受け、布地に絵

柄と「浅間第四部落会」と書かれた幟を作ったという。この幟は現存し、第三常会で大切に管理保存されている。柏

亭の人柄がこの幟に表れている気がする。

(浅間第2 N)



柏亭の手による幟の書

秋の親睦会食会



左：ちゃんこづくり 右：会食会の様子



11月16日(日)に親睦会食会が県営住宅集会所前にて行われました。元力士の宇留賀響さんをお呼びし、本格的なちゃんこ鍋と餅つきをしました。

ちゃんこ鍋は響さんと役員で前日から仕込みをし、当日は相撲部屋のレシピ順に切った野菜と肉だんごを煮込んでいきました。ちゃんこ鍋づくりでは、肉だんごを特大のすり鉢で擦り混ぜたり、だしを取った後のぬめり昆布を大量に千切りするなど細かく丁寧な作業がありました。

出来たちゃんこ鍋は響さん自らよそってくださり、臼と杵でついたお餅と共にいただきました。そこでは、相撲界

の裏話や質問にも答えてくださり、美味しく楽しい時間となりました。食後のビンゴ大会では、全員がビンゴし景品をもらい大満足な会となりました。

(浅間7 K)

フリーコラム 古今東西

御射神社の秋宮と芭蕉

御射神社は、建武2(1335)年浅間郷(三才山、稲倉洞、原、水汲、浅間の六カ村)の領主赤沢氏により諏訪から勧請されました。三才山本村の西北の尾根にあった鎮守社へ鎮座し、その後現在の地に移されたことが、三才山(みさやま)の地名の由来とも言われています。

御射山とは狩りをする山を意味します。豊猟を祈願する神事の供物を得るため、のつこば奥社がある地でススキを刈って穂屋を設けて狩りを行ったと言われています。この神事は、現在では行われていませんが、御射神社秋宮の例大祭で出される押鉾(神輿)にススキをかざる風習が今も残っています。のつこば奥社祭は、毎年10月21日に御射神社秋宮において六カ村の宮総代参集の下、執り行われています。

ところで、俳人・松尾芭蕉は、「雪散るや穂屋の薄の刈残し」という句を残しています。が、本郷村史の編纂などにも携わった倉科明正氏は研究の



御射神社秋宮の拝殿

(三才山 M)